

試験研究（事前）評価整理表

意見整理表1(事前評価)

試験研究機関名 農業試験場

所管グループ 研究開発グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	外部評価アドバイザーのコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期		
1	10-1 持続性の高い生産方式の推進	水稲有機農産物生産技術の確立	水稲有機農産物生産技術の確立	水稲の有機栽培、特別栽培に対応した栽培技術の開発と体系化実証を通じて、本栽培法の普及定着を支援する。	試験場内において有機栽培および特別栽培に関する個別技術の開発・検証と地域別の有機栽培の体系化実証を行う。現地実証への運営支援と既存技術の事例調査および技術解析を行い、普及に向けたマニュアル等を作成する。	平成16	平成20	A	・豊かで実りある魅力ある農業の明日のため、ご尽力下さい。
2	10-1 持続性の高い生産方式の推進	野菜有機農産物生産技術の確立	野菜有機農産物生産技術の確立	野菜の有機農産物生産等の技術組み立て及び解析、品質評価、経営評価等を行い、本県における有機農産物等栽培技術を確立する。	1 施設野菜及び露地野菜の現地実証ほに導入されている有機栽培の問題点の抽出と改善方法を検討する。 2 本県主要野菜である夏秋キュウリ、アスパラガス有機JAS規格に適合し、安定生産できる有機栽培技術を開発する。 3 有機栽培で問題になる主要病害虫の防除技術を開発する。	平成16	平成20	A	・消費者の関心を捉えた魅力ある研究とと思います。他県に誇れるアスパラガス産出のため1日も早く方法を確立されたい。
3	4-2 品目別生産の展開		水稲の高品質良食味米生産のための登熟特性解明と管理技術の確立	直播栽培の登熟特性の解明を通じて高品質良食味米生産の安定生産を立証する。 水稲の追肥と外観品質、登熟の安定性、食味関連成分の変動を解明し、食味を低下させない施肥法を明らかにする。	1 直播栽培の生育期における非構造性炭水化物の解析による登熟特性の解明。 2 穂肥の時期と食味関連成分、非構造性炭水化物、外観品質の関係を検討する。	平成17	平成19	B	・天候の不安定な年が続いています。良質米の安定供給のため、特性解明を急いでいただきたい。
4	4-2 品目別生産の展開	夏期冷涼な気象条件を生かした会津山間地域特産物の開発と栽培法の確立	地場産小麦の用途別特性の解明と安定供給技術の確立	用途別の特性に合致した小麦生産を阻害している要因の解明と対応技術を確立する。	1 ゆきちからの高蛋白質化にともなう開溝粒が小麦粉の加工適性に及ぼす影響の解明。 2 小麦の産地、栽培管理、収穫乾燥調製作業における外観品質および加工適性の解明。	平成17	平成19	B	・評価は妥当である。
5	4-1 多彩な農業の展開	夏期冷涼な気象条件を生かした会津山間地域特産物の開発と栽培法の確立	潜在的酸性硫酸塩土壌の実態調査と対策技術の確立	潜在的酸性硫酸塩土壌の分布を明らかにするとともに、対策技術を確立する。	猪苗代湖周辺の水田下層土(30~40、40~50cm)の硫酸酸性の強度を調べ、潜在的酸性硫酸塩土壌の分布を明らかにする。 当該土壌における転換畑における酸性化の様相を調べる。	平成16	平成17	B	・県が主体・指導することで畑の転作が実施されていることより、発生する問題には着実に対応すべきと思います。
6	4-1 多彩な農業の展開		本県農産物の機能性評価と活用技術の開発	本県の特徴ある農産物について、機能性成分含量の把握と機能性を高める栽培、加工技術の開発を行い、情報のデータベース化を図る。	1 機能性成分の含量を調査分析する。 2 機能性を維持、向上させる栽培技術、素材化技術を開発する。 3 機能性農産物に関するデータベースを作成する。	平成17	平成19	A	・これを食べるとこれに効果がある、と直線的に思い込みがちで消費者が多いので、食品としての価値が大切であることを十分理解させたい。機能性の評価をされたいと思います。
7	4-2 品目別生産の展開	主要切り花類の高品質・安定生産技術の確立	主要切り花の日持ち性向上技術の確立	安定した切り花品質を得るために、施肥等栽培条件との関係、特に、消費者が重視する項目の1つである日持ち性に重点を置いて検討する。	トルコギョウの施肥等の栽培条件と、日持ち性を含めた切り花品質との関係を調査する。	平成16	平成17	A	・評価は妥当である。